

2019（令和元）年度事業報告

〔2019(平成31)年4月1日～2020（令和2）年3月31日〕

※トピックス



台風15号・19号被害救援金

9月5日に発生した台風15号は、関東地方に上陸したものとしては観測史上最強規模の勢力で9日に上陸し、千葉県を中心に家屋の損壊や電柱の倒壊などの被害が生じた。9月20日付朝刊から「台風15号被害救援金」の募集を開始。12月12日に317万円、2020年3月27日に20万円の合計337万円を千葉県

（*台風19号により浸水した北

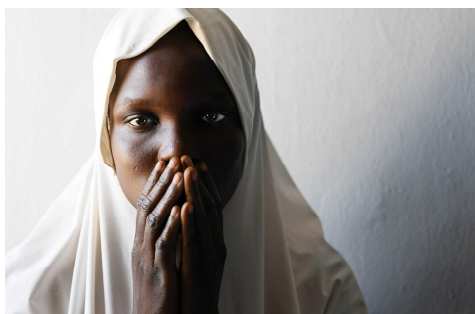
に寄託した。

陸新幹線の車両基地）

また、東日本各地を襲った台風19号により、

土砂崩れや河川の氾濫などの甚大な被害が生じたところから、10月16日付朝刊から「台風19号被害救援金」の募集を開始した。12月12日に第1次分として福島県へ700万円、宮城県500万円、栃木県と神奈川県に各300万円、長野県に200万円の計2,000万円、2020年3月18日には第2次分として福島県へ130万円、宮城県に70万円の計200万円を寄託。贈呈総額は2,200万円となった。

世界子ども救援キャンペーン



社会部・岡村崇記者と写真部・山崎一輝記者を9月13日から10月8日の期間、ナイジェリアに派遣。イスラム過激派の武装勢力「ボコ・ハラム」による襲撃や拉致から逃れて暮らす国内避難民のキャンプをはじめ、性奴隷となった少女＝写真、元少年兵の自立を支援する団体などを取材し、「終わらぬ恐怖

ナイジェリア報告」のタイトルで11月4日付朝刊から7回にわたる連載とともに、11月16日と23日に1ページ特集を掲載し、救援金を募集した。

配食サービス車贈呈事業



国際高齢者年の1999年から始まった「配食サービス車贈呈事業」は、3月初旬から毎日新聞紙上で公募し、6団体から応募があった。11月に外部委員による選考委員会を開き、三重県尾鷲市の同市社会福祉協議会「輪内高齢者サービスセンター」に決定。12月11日に同センターで贈呈式が行われた＝写真。

各公益事業ごとの事業報告詳細

(万円単位で表示しています)

公益事業 1 国内外の福祉に関する事業

(事業種別 3, 4, 6, 7, 11, 12, 15)

「社会福祉のために役立てて」などと寄せられた寄付金は、2020年3月末時点で360件3,325万円(前年357件3,225万円。※小児がん征圧募金を含む)。歳末義援金と「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」の売り上げに加え、同チャリティーの入札漏れ等の作品を5年ぶりに蔵出し展示・販売した「チャリティー特別即売会」の売り上げなどを含め、総計1,208件6,010万円(前年1,174件6,056万円)となった。これらの資金をもとに次の事業を行った。

児童福祉に関する事業

主催事業 (主催公演事業 事業区分 17)

◎第28回そよかぜ杯ボウリング大会 (支払負担金より60万円を支出)

6月16日、大阪市の桜橋ボウルで近畿各地の交通災害遺児をはじめ、病気や自然災害による遺児らとその家族など110人が参加し交流した。大阪交通遺児を励ます会と共催。開催経費60万円を分担助成した。

◎施設児童就職予定者研修会・施設から就職する生徒に祝い金贈呈 (支払負担金より81万円を支出)

2020年2月16日、大阪府下の児童福祉施設から高校、短大を卒業して就職する生徒を対象に、社会人としての心構えを学ぶ研修会を大阪市のシェラトン都ホテル大阪で開催するとともに、就職する81人(対象者全員)に激励の意味を込めて祝い金を1人1万円ずつ贈呈した。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会と共催。(研修会は1975年～・祝い金は1962年～)

共催分担金事業 (その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分 18)

◎ゆうゆう(フレンドシップ)キャンプ (支払負担金より40万円支出)

被虐待児童を対象に、共同生活を通じて自立心や社会性を育てることを目的とした1997年からの継続事業。8月9、10日に兵庫県養父市のハチ高原で1泊2日のキャンプを実施。11月2日(大阪府豊中市の服部緑地公園)と2020年2月2日(滋賀県信楽町)にも日帰りキャンプを行った。大阪府青少年活動財団と共催。主催者分担金として40万円を支出した。

◎小学6年生宿泊交流会 ハチ北林間ホーム (支払負担金より10万円を支出)

8月7～9日、大阪市が管轄する児童福祉施設で暮らす6年生ら40人を兵庫県香美町のハチ北高原に招待。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費10万円を分担助成した。

◎第51回新春こども大会 (支払負担金より10万円を支出)

2020年1月19日、大阪市管轄の児童福祉施設の子ども達約300人が、冬休みに練習した踊りや演劇などを発表する「新春こども大会」を、大阪市の市立こども文化センターで開催。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎第34回駅伝・ロードレース大会 (支払負担金より5万円を支出)

2020年2月8日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生約270人が参加する駅伝・ロードレース大会を大阪府吹田市の弘済小中学校グラウンドにて開催。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

(キャンペーン事業 事業区分8)

◎母の日・父の日募金キャンペーン (支払助成金より92万円を支出)

「プレゼントをあげる親がもういない」との声をきっかけに、親を亡くしたり、一緒に暮らせない子ども達への支援にかえる本キャンペーンは、5月5日と6月16日付朝刊で募金を呼びかけ、44件92万円が寄せられた。この募金からCVV(社会的養護の当事者支援活動)、子どもセンターぬっく、チャイルド・リソース・センターに各15万円、あしなが育英会に47万円を贈呈した。

児童福祉特定団体助成・支援事業

(文末のカッコ内は：支払助成金または経費)

*母子生活支援施設「母と子の一泊旅行」＝7月6～7日、大阪府内の2民間母子寮の親子40人を、和歌山県の白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(28万円)

*琵琶湖セツルの家＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市の琵琶湖畔に宿泊施設を開設し、保育所、児童館、子どもの家などの利用者へ開放。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(8万円)

*自立支援研修(いずみサロン・職業体験実習・自立支援ブック作成)＝7月6日～2020年2月8日、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学3年～高校3年生までを対象に、調理実習や職業体験を通じて自立と就労についての研修を4回行った。昭徳会「就労支援事業サポートいずみ」の主催。本団が助成後援した。(39万円)

*ふれあいキャンプ＝8月15～16日、小学1年生以上の里子を対象としたキャンプ。徳島県阿南市のYMCA阿南国際海洋センターで開催。毎日新聞社と

ともに愛の手運動（里親さがし運動）を展開する家庭養護促進協会が主催。本団が単独で助成後援した。（18万円）

*** 第66回児童福祉施設スポーツ大会**＝8月21～22日、名古屋市の大高緑地公園野球場で開催。本団が助成後援した。（1万円）

*** 講演会「社会的養護の子どもたち～医療と施設と児童相談所の連携を考える～」**＝10月26日、児童精神科医で北海道大学名誉教授の田中康夫さんを招き、児童福祉施設・児童相談所職員等を対象に発達に課題を抱える子ども達への具体的な関わり方を実践的にアドバイス。大阪市のホテルアウイーナ大阪で開催。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部の主催。本団が単独で助成後援した。（50万円）

*** 第47回北摂子ども大会**＝12月7日、北摂地域の児童養護施設などに暮らす子ども達のスポーツ大会。大阪府茨木市中央公園南グラウンドで開催。北摂児童施設連盟の主催。本団が単独で助成後援した。（10万円）

*** 児童福祉施設に絵を贈る運動**＝12月末、子ども達の情操教育の一環として、「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」に寄せられた作品から絵画6点を愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に贈った。また、2020年3月にも島根県内の児童福祉施設3カ所に絵画3点を贈呈した。

高齢者福祉に関する事業

主催事業（助成「応募型」事業 事業区分13）

◎配食サービス車贈呈事業（支払助成金より180万円を支出）

※トピックスで紹介。4ページをご参照ください。

医療福祉に関する事業

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8）

◎小児がん征圧キャンペーン（支払助成金より770万円を支出）

毎日新聞社と展開している「生きる－小児がん征圧キャンペーン」と連動した「小児がん征圧募金」は大口寄付者からの1件2,500万円を含む83件2,835万円（前年65件2,584万円）が寄せられた。2020年3月、次の11団体に70万円ずつ計770万円を贈呈した。（1996年～）

1. チャイルド・ケモ・ハウス（神戸市）
2. 日本クリニックラウン協会（大阪市）
3. TSURUMI こどもホスピス（同）
4. JHDAC（Japan Hair Donation&Charity）（同）
5. 京都ファミリーハウス（京都市）

6. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」 (同)
7. 守口ぶどうのいえ (大阪府守口市)
8. しぶたね (大阪府大東市)
9. 近畿小児血液・がん研究会 (大阪府吹田市)
10. あいち骨髄バンクを支援する会 (名古屋市)
11. ふくぷくばるーん (同)

心身障害者福祉に関する事業

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分 18)

共催分担金事業

◎第 32 回専門点訳・音訳講習会 (支払負担金より 100 万円を支出)

1987 年度からの継続事業で、専門図書(point-to-point)の点訳、音訳の技術を修得するための講習会。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍してもらう。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・専門点訳講習会「点訳のてびき第 4 版」研修
A 日程・5 月 9、10 日、全 2 回、49 人
B 日程・5 月 29、30 日、全 2 回、54 人
- ・専門音訳講習会「図表コース」
5 月 15 日～6 月 26 日の期間に 6 回、24 人
- ・専門音訳講習会「古典コース」
5 月 18 日～6 月 22 日の期間に 5 回、17 人
- ・専門音訳講習会「小説の読み方コース」
6 月 4 日、19 人
6 月 7 日、20 人
- ・専門音訳講習会「理数コース」
2020 年 2 月 27 日と 3 月 12 日に開講を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により次年度に繰り越した。

◎第 22 回視覚障害者 ICT・サポートボランティア講習会

(支払負担金より 30 万円を支出)

1997 年度からの継続事業で、視覚障害者の情報環境を支える ICT (インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー) 機器を利用する視覚障害者に、操作方法などを教える指導者養成のための講習会。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・5 月 11 日、「開講式」「ICT 最前線」、32 人
- ・5 月 25 日、「ブレイルメモスマート講習会」、4 人
12 月 21 日、同、19 人
- ・6 月 15 日、「モノタグ体験会」、16 人
- ・7 月 27 日、「NTT ドコモ iPhone 基礎コース」、28 人
- ・8 月 24 日、「UDCast で音声解説映画鑑賞体験会」、22 人

- ・ 9月21日、「遠隔支援カメラシステムリモートアシスト体験会」、15人
- ・ 11月22日、「Rivo2体験会」、6人
- ・ 2020年1月11日、「Windows Media Player講習会」、5人
- ・ 同 1月25日、「NTTドコモ iPhone体験講習会」、28人
- ・ 同 2月15日、「iPhone応用講習会」、6人

◎「声の点字毎日」の発行 (支払負担金より10万円を支出)

全国の国立ハンセン病療養所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字毎日の「声の点字毎日」デージー版(月2回発行)を寄贈する事業。費用の一部を、東京・西部社会事業団とともに10万円ずつ分担した。

(表彰、コンクール事業 事業区分14)

◎第88回全国盲学校弁論大会 (支払負担金より20万円を支出)

10月4日、東京都立文京盲学校で開催。全国7地区の予選を勝ち抜いた代表9人が熱弁をふるい、福島県立視覚支援学校高等部保健医療科1年の常松桜さん(19)が優勝。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わる。費用の一部を、東京社会事業団が20万円、西部社会事業団も10万円分担した。(1928年～)

◎毎日社会福祉顕彰 (支払負担金より161万円を支出)

毎日新聞大阪社会事業団創立60周年記念事業として始まり、49回目。社会福祉の分野で献身的な活動をしている個人、団体を顕彰する。毎日新聞紙上などで公募し5月末に応募を締め切り、厚生労働省や大学教授らからなる審査委員会を経て、次の1個人・2団体が選ばれた。贈呈式は10月25日に東京で行われ、賞牌と賞金(1件につき100万円)を贈った。

◇茂木幹央さん=社会福祉法人「日本失明者協会」理事長(埼玉県深谷市)

2歳の時、はしかが原因で失明。日本大学卒業後、厚生教官を経て日本失明者協会を設立し、1979年、故郷の埼玉県深谷市に同県初の養護盲老人ホーム「ひとみ園」を開設した。「視覚障害者の職業選択の幅を広げ、楽しみが少ない老後を有意義に暮らせるように」と活動を広げ、現在は特別養護老人ホームや若い障害者のためのグループホーム、就労継続支援事業所など計6施設を運営している。

◇社会福祉法人「水仙福祉会」=松村寛理事長(大阪市)

1956年に「風の子保育園」を設立し、69年から障害児を受け入れて健常児と一緒に過ごす「統合保育」を先導した。その後、預かるだけの統合保育に限界を感じ、親子在園など独自の方針を掲げる障害児専門の「淡路こども園」を始めた。さらに義務教育後を支える「風の子そだち園」を開設し、障害者を幼児期から一貫して支える体制を築いた。

◇シャローム=大竹静子代表(福島市)

障害者支援を目的に1981年、福島市に設立。県内の障害者施設をつないだ授

製品の展示販売や全国の障害者アートを紹介するなど、障害の有無にかかわらず「誰もが共に生きられる社会づくり」を目指してきた。2011年の東日本大震災後、被災地に関心を持ってもらおうと全国にひまわりを栽培してもらうプロジェクトを始めた。

心身障害者特定団体助成・後援事業（文末のカッコ内は：支払助成金）

* 第54回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会＝7月7、14、28日、8月4日に大阪府八尾市の久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。（レプリカ代1万円）

* 第44回わたぼうし音楽祭＝8月4日、奈良市の奈良県文化会館で開かれ、わたぼうし大賞に大阪市の与那覇里美さん(36)作詩、大阪府茨木市の三木祐子さん(35)作曲の「2さい」が選ばれた。奈良たんぼぼの会主催の同音楽祭を、毎日新聞社とともに本団をはじめ、各事業団が助成後援した。（大阪20万円・東京10万円・西部5万円）

* 第47回愛知心理療養キャンプ＝8月17～22日、愛知県蒲郡市の蒲郡ホテル別館で開催。本団が助成後援した。（3万円）

その他の社会福祉事業団体の事業助成

（助成「応募型」事業 事業区分13）

◎公募福祉助成金（支払助成金より75万円を支出）

国内外の地域で福祉活動に取り組んでいたり、先駆的事业でどこからも援助がない団体・施設などへ、公募により事業助成を行う。歳末たすけあい運動と連動して応募を受け付け、2020年1月30日に選考委員会を開き、申請のあった22団体のうち、下記8団体に総額75万円を贈呈した。

- | | |
|--|------|
| 1. 禁煙推進の会兵庫さんだ（兵庫県三田市） | 5万円 |
| 2. サンフェイス（大阪市） | 20万円 |
| 3. すまみらい（神戸市） | 10万円 |
| 4. 奈良県手話通訳士協会（奈良市） | 20万円 |
| 5. HAG (Hospice Art therapy & Griefcare)（兵庫県西宮市） | 5万円 |
| 6. ミュージック・アトリエ「エコー」（神戸市） | 5万円 |
| 7. ラブラブたんぼぼパフォーマンスライブ実行委員会（富山県立山町） | 5万円 |
| 8. 和歌山県網膜色素変性症協会（和歌山市） | 5万円 |

* 名古屋市視覚障害者協会が発行する機関紙「のぞみ」第40号発行

2020年1月発行の製作費を助成した。（支払助成金より3万円を支出）
その他目的を達成するために必要な事業

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎歳末たすけあい運動

11月9日～12月20日にかけて「歳末義援金」の募集や「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」を実施。

*歳末義援金

社告や特集掲載に加え、これまでの寄付者へのダイレクトメール送付で歳末義援金を募った。寄せられた義援金は848件915万円で前年度比115万円の減。

*チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会

12月14日～16日、毎日新聞ビル地下1階のオーバルホールで開催。売り上げは1,482万円(東日本大震災支援コーナーの14万円を含む)で前年度比313万円の減。本収益から歳末慰問金として70万円を次の7団体に贈呈した。

(支払助成金より70万円を支出)

1. 大阪子どもの貧困アクショングループ(大阪市)	10万円
2. 大阪更生保護施設連盟(同)	5万円
3. 大阪家庭少年友の会(同)	5万円
4. こどもの里(同)	5万円
5. みどり自由学園(児童養護施設・三重県津市)	15万円
6. 溢愛館(同・愛知県犬山市)	15万円
7. 合掌苑(同・岐阜県郡上市)	15万円

*チャリティー特別即売会

7月6日、毎日インテシオ4階特設会場にて、年末恒例の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」に、美術工芸家や著名人らから寄せられた作品のうち、入札漏れ等により蔵入りしていた絵画、工芸品、色紙、書などの秘蔵作品約500点を5年ぶりに展示即売。270点291万円の売り上げがあった。

*第52回歳末たすけあいチャリティーチャレンジ棋力認定戦

(支払助成金より3万円、材料費として3万円を支出)

12月15日、大阪市で開催。本収益の5万円で囲碁セット3組を製作し、漫画「ヒカルの碁」全12巻とともに、2020年3月、島根県内3カ所の児童福祉施設に贈呈。スポーツニッポン新聞社、日本棋院主催。本団の単独後援。

◎指定寄付金事業

(支払助成金より27万円を支出)

助成先を指定され、送られてきた寄付金。「あしなが育英会に」、「愛の手運動に」など21件27万円が寄せられた。

◎機関紙「そよかぜ」の発行

(印刷製本費より16万円を支出)

「そよかぜ」52号を製作し、6月1日に1万部発行した。

その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
3月1日～5月31日に募集。11月に表彰式	「第17回オンキヨー世界点字作文コンクール」	
3月31日、4月7、21、28日	「第56回全大阪ろう社会人軟式野球 春季大会」	大阪府営久宝寺緑地軟式野球場、寝屋川公園第1野球場、大阪市長居公園野球場
4月13日、5月11、19、25、26日	「2019年度愛知県障害者スポーツ大会」	名古屋市千種区の星ヶ丘ボウル、豊田市運動公園陸上競技場など
4月18日～20日	「バリアフリー2019」ー第25回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展	大阪市住之江区のインテックス大阪
4月1日～2021年3月	関西いのちの電話 第55期「電話相談ボランティア養成講座」	大阪市淀川区十三元今里3-1-72社会福祉法人博愛社5階会議室など
4月24日～11月21日	「第16回名古屋市障害者スポーツ大会」	名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムなど
5月30日～6月1日	「第22回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2019～」	名古屋市のポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)
6月8日	「共に生きる23」	大阪府箕面市の市立メイプルホール大ホール
6月16日	「第37回日本ライトハウス チャリティコンサート」	大阪市北区のザ・シンフォニーホール
7月7日	「第36回愛知県聴覚障害者大会」	小牧勤労センター(愛知県小牧市大字上末2233-2)
7月20日	平成31年度合同求人説明会「福祉の就職総合フェア2019 in OSAKA」	大阪市住之江区南港北のインテックス大阪2号館
7月30日～8月4日	「第40回子どもたちの讃歌展」	大阪市立美術館 地下展示室1・2
8月19日～9月5日	第5回全日本若手障害者リーダー育成留学“ターニングポイント@RYUGAKU”	国内と海外
8月22日	創立60周年記念事業「第69回施設従事者激励会」	大阪「新歌舞伎座」(大阪市天王寺区)
9月16日	「第60回大阪知的障がい者福祉大会」	グランキューブ大阪(大阪市北区中之島5-3-51)
10月4～6日	「第44回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会」	愛知県東海市の市立勤労センター、平地公園野球場、大池公園野球場、新宝緑地運動公園など

10月5日	「生き生き長寿フェア2019」	愛知県大府市、知多郡東浦町の「あいち健康の森公園」
10月19、20、26、27日	「第38回スポーツフェスタ2019大阪」	ヤンマースタジアム長居(長居陸上競技場:大阪市東住吉区)など
10月27日	「ファインエリアフェスティバル2019」	堺市南区城山台5の府立障がい者交流促進センター(ファインプラザ大阪)など
10月27日	「第47回全大阪ろうあ者文化祭」	大阪市立長居身体障がい者スポーツセンター(大阪市東住吉区长居公園1-32)
10月30日	「第67回愛知県社会福祉大会」	愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」(常滑市セントレア5)
11月9日	「第55回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー」	八尾市山城町1、第1公園(買物公園)
11月14日	「第20回大阪救護施設合同文化事業」	大阪市都島区の「太閤園」迎賓館3階ダイヤモンドホール
11月16～17日	「第23回全国聴覚言語障害者福祉研究交流会」	立命館大学いばらきキャンパス(茨木市岩倉町2-150)
11月17日	「第64回名古屋市身体障害者福祉大会」	名古屋市中区の中区役所ホール
11月26日	「令和元年度大阪府社会福祉大会」	大阪国際交流センター・大ホール(大阪市天王寺区上本町8-2-6)
11月30日	「2019年度 医療社会事業従事者講習会」	大阪市中央区谷町7の大阪府社会福祉会館501号室
12月8日	「第59回愛知県身体障害者福祉大会」	碧南市文化会館(碧南市源氏神明町4)
2020年1月31～2月5日	「第39回『障がいのある子どもに学ぶ』図工展」	インクルーシブ教育推進室(大阪市東淀川区東淡路1)
2月4～9日(審査会は2月3日)	「第54回名古屋市障害者作品展示会」	名古屋市博物館ギャラリー第1、2、3、8室(名古屋市瑞穂区瑞穂通1)
2月14～16日	「2020国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会」	丸善インテックアリーナ大阪(大阪市中央体育館:港区田中3)
2月16日	安心して長期療養ができるように! 難病患者の医療・福祉を考える「府民のつどい」	エル・おおさか(大阪市中央区北浜東3-14)
2月24日	認知症の人と家族の会 愛知県支部「40周年記念講演会」	ウインクあいち(名古屋市中村区名駅4-4-38)

公益事業 2 シンシア基金事業 (事業種別 3)

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8)

◎シンシア基金 (支払助成金より 35 万円を支出)

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、1998 年から毎日新聞阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を呼びかけた。

2020 年 3 月末までに寄せられた「シンシア基金」は、43 件 224 万円 (前年度 27 件 145 万円) となった。

身体障害者補助犬 (盲導犬・介助犬・聴導犬) の社会的認知を促進するため、毎日新聞社や兵庫県宝塚市などで行う実行委員会が主催する身体障害者補助犬シンポジウム (12 月 14 日、同市立中央図書館で開催) の経費として 35 万円を支出した。

(助成「応募型」事業 事業区分 13)

◎シンシア基金公募助成 (支払助成金より 50 万円を支出)

身体障害者補助犬の育成や支援に関わる団体などに公募助成を行う。歳末たすけあい運動と連動して応募を受け付け、2020 年 1 月 30 日に選考委員会を開き、申請のあった 3 団体のうち、2 団体に 50 万円を贈呈。

1. 日本介助犬協会 (本部は横浜市、訓練センターは愛知県長久手市) 20 万円
2. 兵庫介助犬協会 (兵庫県西宮市) 30 万円

その他の名義後援事業

◇「介助犬フェスタ 2019」を名義後援 = 5 月 18 日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園内、地球市民センターで開催。日本介助犬協会の主催。

公益事業 3 災害救助に関する事業 (事業種別 3)

◎災害救援基金事業

* 台風 15 号被害救援金 (支払助成金より 337 万円を支出)

※トピックスで紹介。4 ページをご参照ください。

* 台風 19 号被害救援金 (支払助成金より 2,200 万円を支出)

※トピックスで紹介。4 ページをご参照ください。

* 西日本豪雨災害救援金 (支払助成金より 168 万円を支出)

9 月までに 10 件 38 万円が寄せられた。6 月 24 日に繰越額とあわせ、第 3 次分として日本赤十字社岡山県支部へ 69 万円、同広島県支部へ 58 万円、愛媛県に 26 万円の合計 153 万円を寄託。2020 年 3 月 11 日にも第 4 次分として同岡山県支部へ 15 万円を寄託した。贈呈総額は 4,168 万円となった。

*** 北海道地震救援金** (支払助成金より 12 万円を支出)

9 月までに 5 件 10 万円が寄せられた。9 月 26 日に繰越額とあわせ、第 3 次分として北海道厚真町へ 12 万円を寄託した。贈呈総額は 1,262 万円となった。

◎ 東日本大震災救援事業

*** 東日本大震災救援金** (支払助成金より 50 万円を支出)

2020 年 3 月までに 39 件 49 万円が寄せられた (総合計 7,907 件 4 億 8,141 万円)。3 月 11 日に第 18 次分として、前年度の繰越額とあわせて 50 万円を日本赤十字社に寄託した。これまでの贈呈総額は 4 億 7,027 万円となった。

*** 毎日希望奨学金** (支払助成金より 4,776 万円を支出)

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は、9 年目を迎え、奨学金への募金を毎日新聞紙上等で呼びかけた。2020 年 3 月末までに 674 件 1,435 万円が寄せられた。

(2011 年度からの合計 16,616 件 9 億 9,159 万円：東京・西部事業団分含む)

3 月 8 日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけた。50 人の募集枠に対して 55 人が応募。5 月 10 日、有識者による選考委員会が開かれ、全会一致で 55 人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて 199 人(高校生 83 人、短大・大学・大学院生 96 人、専修学校生 20 人)になった。

4 月 25 日、144 人 (4、5、6 月分)	864 万円
6 月 25 日、55 人 (4、5、6 月分)	330 万円
7 月 25 日、199 人 (7、8、9 月分)	1,194 万円
10 月 25 日、199 人 (10、11、12 月分)	1,194 万円
<u>2020 年 1 月 24 日、199 人 (1、2、3 月分)</u>	<u>1,194 万円</u>

合計 4,776 万円を支給

公益事業 4 国際協力に関する事業 (事業種別 15.16)

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8)

◎ 世界子ども救援キャンペーン (委託費より 112 万円を支出)

※トピックスで紹介。4 ページをご参照ください。

国際児童年 (1979 年) に毎日新聞社との共催で「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。記者を海外に派遣し、帰国後の紙面展開で苦境にある子どもたちへの救援をアピールする。

取材経費は大阪、東京、西部の事業団で分担し、本団からは 112 万円を支出した。

* 報道写真展を開催

今回の取材をもとに、「終わらぬ恐怖 ナイジェリア報告」の報道写真展（カラー写真 33 枚展示）を、大阪市の堂島アバンザ 1 階エントランスホール（2020 年 2 月 13 日～19 日）で開催した。

* 世界子ども救援金

読者らから寄せられた「世界子ども救援金」は、2020 年 3 月末で 397 件 708 万円。

広く一般から申請を受け付けた「公募助成」と、今回のキャンペーンで紙面掲載された地域や団体を中心にした「取材地助成」、これまでの取材地で引き続き支援が必要と判断された「継続助成」の 3 つの助成を行う。いずれも活動内容、実績などから選考している。

なお、2015 年度に寄せられた大口寄付者からの 3, 000 万円をもとにした MH 基金の配分も今回で 4 年目を迎えた。

（助成「応募型」事業 事業区分 13）

◎ 公募助成

4 団体へ総額 80 万円を贈呈	（支払助成金より 80 万円を支出）
1. CODE 海外災害援助市民センター	20 万円
2. 地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）	25 万円
3. ユナイテッド・アース	20 万円
4. ラリグラス	15 万円

◎ 取材地助成

4 団体へ総額 200 万円を贈呈	（支払助成金より 200 万円を支出）
1. 国連開発計画（UNDP）	70 万円
2. 国連人道問題調整事務所（OCHA）	40 万円
3. 日本ユニセフ協会	30 万円
4. 国境なき医師団日本	60 万円

◎ 継続助成

4 団体へ 100 万円を贈呈	（支払助成金より 100 万円を支出）
1. 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）	30 万円
2. 高遠菜穂子（ピース・セル・プロジェクト）	20 万円
3. 日本国際ボランティアセンター（JVC）	20 万円
4. 国連 UNHCR 協会	30 万円

2019（令和元）年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020（令和 2）年 5 月
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
以 上